

## 生活が改善できる夏季手当を支給せよ！

### 24年度実質賃金 0.5%減

#### 物価上昇で3年連続マイナスとなる

厚生労働省が22日発表した2024年度の毎月勤労統計調査（確報値、従業員5人以上）によれば、現金給与総額（名目賃金）に物価の変動を反映させた実質賃金は前年度比0.5%減と、3年連続のマイナスでした。減少幅は23年度（2.2%）より縮小したものの、物価高騰に賃金の伸が追い付かず、厳しい生活実態を如実に表している。

基本給や残業代などを合わせた24年度の名目賃金は3.0%増と、4年連続のプラスとなっているが、米をはじめ食料品や日用品が幅広く値上げされ、家計を圧迫していることから、消費者物価指数の伸び率は3.5%と高止まりとなり、実質賃金は差し引きでマイナスとなっている。

大企業を中心に5%以上の賃上げを行っている企業もあるが、貨物会社の25春闘での賃上げは2,000円であり定期昇給と併せても2,39%のとなっている。

社員と家族は塗炭の苦しみの中に賃上げ率にしかならない。その改善のためには国労要求3.0カ月分の満額支給が何としても必要であることから、経営幹部は重く受け止め決断することを強く求める。

## 要求額満額獲得に向け全力で奮闘しよう！！ 夏季手当満額獲得を勝ち取ろう！



国労要求3.0カ月分は今日の物価高騰が続く厳しい生活を何とかしてでも改善したいとする最低限の要求である。

毎度の期末手当の低額回答を受け、社員のモチベーションは地に落ちており、いきいきとやりがいを持てる制度として導入された人事制度も修正が繰り返され、最終的に昇給額は1割と激減されるなど将来への不安は計り知れないものとなっている。

期末手当は生活給そのものであることから、設備投資と同様に、社員に対しても必要な投資を行うことは当然であり、会社は社員の生活を守るために決断することが求められている。

**次回交渉は6月5日を予定！** 全職場から、機関・旅客の仲間との連携を図り、創意工夫した闘いを最大限取り組もう！